

チャレンジ農業 2025

特集

- I グリーン・ツーリズム推進事業について
- II 大阪府泉大津市との
オーガニックビレッジ宣言について
- III 旭川市農業センターの取組について
- IV 旭川の林業PRについて

旭川市営農改善推進協議会

発刊にあたって

旭川市営農改善推進協議会
会 長 岸本 文孝

旭川市営農改善推進協議会は、地域農業の持続的な発展と安定した農業経営の確立を図るため、市内の農業関連団体が一致団結し、昭和47年7月に発足いたしました。

本協議会の主な取組といたしましては、農業関連機関・団体と連携の上で、経営・担い手育成、金融、水稻畑作、園芸、畜産、土づくり、土地改良、鳥獣対策、森づくりの9つの専門部会を設置し、各分野における課題解決に向けた事業を推進しているものです。

本書“チャレンジ農業”は、農業者の皆様に本協議会をより身近に感じていただいた上で事業を進めていくことが重要であるとの思いから、上川農業改良普及センターの御協力のもと、毎年作成し配布しているものです。各専門部会での取組をお知らせするなど、より活用しやすい冊子となるよう作成しておりますので、本年の経営を考える上での一助として御活用いただきたいと存じます。

本年も皆様方が御健勝で営農に従事され、実りの多い豊穰の秋を迎えられますことを御祈念申し上げ、発刊の言葉といたします。

目 次

特 集

I	グリーン・ツーリズム推進事業について -----	1
II	大阪府泉大津市とのオーガニックビレッジ宣言について --	2
III	旭川市農業センターの取組について -----	4
IV	旭川の林業 P R について -----	7

農作物の生育状況

I	令和 6 年 水稲の生育経過と作柄の概要について -----	9
II	令和 6 年 畑作作柄の概要について -----	1 3
III	令和 6 年 園芸作物の概況について -----	1 5

営農技術トピック

I	水稲直播研究会実態調査の分析結果 -----	1 7
---	------------------------	-----

参考資料

I	令和 6 年 旭川市における気象の経過 -----	2 1
II	統計資料 -----	2 3

I グリーン・ツーリズム推進事業について

【経営・担い手育成専門部会】

農業に対する理解の促進や農村地域の活性化を図るため、農家民泊など農業者が取り組むグリーン・ツーリズム関連事業を支援するとともに、農作業体験などを通じて、都市住民が農業・農村に接する機会を創出しています。

1 市内小中学校農作業体験事業について

都市住民に対する農業・農村への理解を促進するため、旭川市内の小中学生を対象に、市内の農村地域を活用して農作業体験を行う学校に対し、交通費や体験料を補助する活動を行っています。

令和6年度は、小学校5校、中学校2校、延べ児童生徒466名が田植え・稲刈り・脱穀などを体験しました。この体験活動を通じて、普段食べている農産物がどのように生産されているか学ぶとともに、食糧生産を支える農業に対する知識や関心を深めることができました。

令和7年度も農作業体験を行う学校に対して支援を行うことで、児童生徒が農産物を育てる苦労や喜びを実感・理解してもらい、旭川の基幹産業である農業の実態を学び、農業の魅力を感じてもらえるよう、引き続き取り組んでいきます。



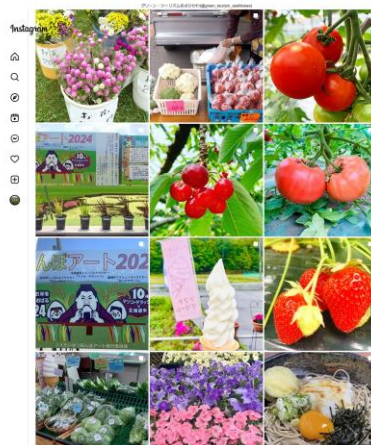
2 グリーン・ツーリズム関連施設PR活動について

旭川市内にある農作業体験や農産加工体験のできる施設、農家民泊、農産物直売所や農家レストランなどをグリーン・ツーリズム関連施設として、ホームページやパンフレットを作成し紹介しています。



Instagram

グリーン・ツーリズムあさひかわ



Ⅱ 大阪府泉大津市とのオーガニックビレッジ宣言 について

【旭川市農政部農業振興課】

1 オーガニックビレッジとは

オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことをいい、全国で131市町村（令和6年12月27日時点）がオーガニックビレッジを宣言しています。

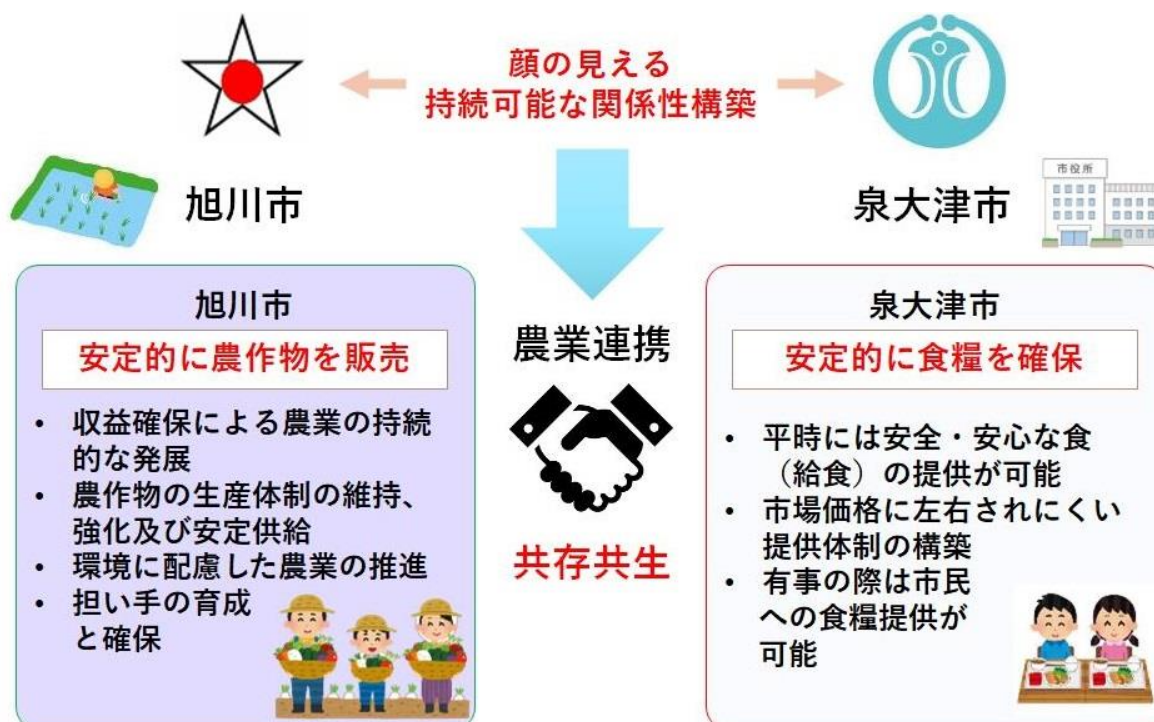
2 旭川市×泉大津市 オーガニックビレッジ宣言について

旭川市と大阪府泉大津市は、令和5年8月に農業連携協定を締結し、泉大津市学校給食への旭川産有機JAS認証米の提供を行うこととなりました。これ以降、旭川市での有機農業に対する生産者の意識が高まり、更なる有機農業の推進に向け、令和6年7月に旭川市と泉大津市で連携し、オーガニックビレッジ宣言をしました。

遠隔地にある生産地と消費地が連携してのオーガニックビレッジ宣言は全国初となります。



3 両市の連携で目指す姿



4 令和6年度の主な活動概要

(1) 泉大津市学校給食での旭川産有機JAS認証米提供【令和6年7月～11月】

品 種：ゆめぴりか

数 量：玄米約20t（令和5年産）

※令和6年産は約30tを予定

対 象 校：泉大津市内全小中学校（小学校8校、中学校3校）

提供回数：小学校38回、中学校43回



(2) 泉大津市学校給食での旭川イベント実施【令和6年9月26日】

泉大津市全小・中学校給食で、旭川産の農産物を使用した
北海道の郷土料理を提供する「旭川DAY」を開催

提 供 メ ニ ュ ー：ご飯、どさんこ汁、ザンギ、
有機かぼちゃのオーブン焼き

使用した有機農産物：米（ゆめぴりか）、かぼちゃ



(3) 両市間交流推進 グリーン・ツーリズム×こども特派員【令和6年8月20日～22日】

泉大津市の親子5組10名が旭川市を訪問し、有機農業への
理解を深めるグリーン・ツーリズムツアーを実施

行き先：㈱Lienfarm、㈱石坂ファーム、
㈱谷口農場、㈱うけがわファームDEN-EN、
JAたいせつ田んぼアート、旭山動物園



(4) 泉大津市プレ万博イベントでの旭川産有機農産物PR【令和6年9月21日、22日】

旭川食のアンバサダーである下國シェフ監修のメニューと
有機農産物を販売

販売物：有機野菜を使用したスープカレー、
有機JAS認証米ゆめぴりか、
有機カボチャスープ、有機栽培トマトジュース、
有機ハーブティー、有機ハーブソルト



(5) あさひやま夜の動物園レストラン【令和6年8月10日、11日】

旭川市立大学短期大学部の学生が考案したレシピを旭川食の
アンバサダーである下國シェフが監修した特別メニューを
旭山動物園東門レストランで提供

提供メニュー：料理9品（学生考案、シェフ監修）
＋有機農産物を使用した1品（シェフ考案）

提供食数：200食（100食×2日）



Ⅲ 旭川市農業センターの取組について

【旭川市農業センター】

農業センターでは、旭川青果物生産出荷協議会（各品目部会）やＪＡ等の要望に基づく園芸作物等の試験研究、新規就農希望者や新規園芸参入者を対象とした研修、健全な土づくりを推進するための土壌分析や土づくり支援等、本市農業を支援するための様々な事業に取り組んでいます。

1 令和６年度に実施した主な試験研究 ※（ ）は要望元

(1) サツマイモ栽培における生分解性マルチ適性試験（市内農協）

近年栽培が盛んになっている市内のサツマイモは、今後も作付面積の拡大が見込まれています。サツマイモの収量を安定的に得るには、地温確保等のためマルチの使用が必須ですが、マルチは収穫時の剥ぎ取り、片付けに時間と人手がかかることから、作付面積の拡大において課題となっています。

作業の省力化のため、本州産地では生分解性マルチを使用している事例があることから、慣行の農ポリマルチと生分解性マルチ５銘柄について、サツマイモの収量性や作業性への影響を調査し、当地での適性を検討しました。



サツマイモ栽培ほ場

(2) 夏秋ナスの養液栽培試験（市内農協）

北海道はナスの作付面積が全国最下位であり、道内で販売されるナスのほとんどが道外産ですが、近年は道内でもナスの養液栽培に取り組む生産者が増え、道内産ナスの出荷が増加しています。市内でもナスの養液栽培への取組が徐々に増えてきていることから、本試験を行いました。

今年度は、昨年度の品種比較試験で良好な結果を示した「ＰＣ筑陽」を用いて、肥料コスト削減を目的とした給液濃度試験や、切り戻し方法が異なる剪定法の比較試験を行いました。また、本州の主要産地では収量性の高い強勢台木を用いた接ぎ木栽培が主流となっていることから、当地における接ぎ木栽培の特性を調査し、その適性について検討しました。

(3) ブロッコリーの直播栽培試験（旭川市内農民連盟）

国内のブロッコリー栽培は、移植栽培が一般的ですが、育苗に要するコストと労力の負担が大きいことが課題となっています。

その一方で、一部の道内他産地においては直播栽培が導入されており、低コスト化及び省力化が可能な栽培方法として期待されています。

本試験では、市内で直播栽培が可能な時期、播種方法、栽植密度等について検討しました。



ブロッコリー栽培ほ場

(4) その他の試験

前述の3課題に加え、「サヤインゲンの品種比較試験」「摘み取り春菊の品種比較試験」「大玉トマトの促成栽培における品種比較試験」「根こぶ病抵抗性を有するチンゲンサイの品種比較試験」「ナンバンノ接ぎ木栽培における品種比較試験」「リーフレタスの作期別品種比較試験」「シャインマスカットの栽培法試験」「サツマイモ苗の増殖実証試験」「遮光遮熱資材を用いた葉菜類の栽培試験」「寒締めホウレンソウ品種比較試験」を含めた計13課題の試験研究を実施しました。

2 農業担い手研修育成事業

市内の農業の担い手育成を目的として、営農技術や農業機械、農業経営等をテーマに、質疑応答のしやすい少人数制の研修を行うとともに、対象者のほ場を巡回し、栽培技術に関する指導を行っています。併せて、近隣8町（旭川大雪圏域連携中枢都市圏）との連携により、各町の研修対象者も農業センターが実施する研修に参加しています。

本事業の市内対象者と支援内容は、次のとおりです。

市内対象者	支援内容
・就農前研修生	・道認定の研修教育機関として少人数制の研修を実施
・就農直後の方 ・新たに園芸品目の栽培を始める方	・上記研修における合同研修を実施 ・農業センター職員によるほ場巡回と現地指導

(1) 令和6年度の研修生の内訳（令和6年12月現在）

- ・市内就農前研修生 4名
- ・市内新規就農者、後継者等 12名
- ・他町の研修対象者 11名
（鷹栖町、東川町、比布町、当麻町）

(2) 令和6年度の研修内容

- ・農業センターほ場での栽培技術研修、農薬・病虫害・土づくり等に関する研修
- ・パイプハウスの施工研修
- ・農業機械、経営管理、販売・流通に関する研修



農業機械研修（トラクター操作）

(3) 令和6年度の巡回指導（4月～11月分）

- ・対象戸数11戸、延べ回数24回

(4) 巡回指導の例

- ・果菜類主体の方が花き類の栽培を新たに導入したため、栽培方法や品目特性、防除方法等について情報提供及び助言を行った。
- ・果菜類主体の方が夏期の繁忙期に作業が追いつかず秋の収量が落ち込んだため、定植期の変更について情報提供及び助言を行った。

3 土づくり対策支援事業

農業センターでは、市内 J A や上川農業改良普及センターと協力して、土づくり支援に特化したほ場巡回を実施し、現地指導や情報発信に取り組んでいます。

加えて、土づくりに係る生産者からの相談にも対応しており、状況に応じて土壌断面調査を実施するなど、生産現場における課題解決に向けた支援にも取り組んでいますので、お困りごとや御不明な点がございましたら、お気軽に御相談ください。



ハウス新設予定地における土壌改良に向けた事前調査



生育不良ほ場における原因究明に向けた土壌断面調査

また、土づくりの推進に当たっては、土壌分析診断によるほ場状態の確認が有効です。診断結果に基づき適正施肥栽培を進めることにより、生産性を保ちつつ、肥料コストを抑える等の効果も期待できることから、生育不良等の問題が見られないほ場においても、定期的な分析診断の実施をお勧めします。

分析内容と手数料額は、次のとおりです。

分析種別	内容	手数料額
一般分析	家庭菜園等を想定した、必要最小限の項目を分析します。	700 円
総合分析	作物栽培に重要となる、肥料の多量要素（窒素・リン酸・カリ）に加えて、 <u>微量元素等も含めた広範な項目を分析</u> します。	1,170 円

※ 一般分析には、窒素や微量元素等は含まれません。農業者の方には、より充実した診断が可能な「総合分析」をお勧めします。

※ 申請に当たっては、最寄りの J A に御相談いただくか、採取した土を持参の上、農業センターに直接申請してください。（通年受付）

詳しくは農業センター（61-0211）にお問い合わせください。

Ⅳ 旭川の林業PRについて

【森づくり専門部会】

森づくり専門部会では、森林、林業、木材産業における人材育成・担い手確保、木材利用、普及啓発の推進に取り組んでいます。

令和6年度は、第37回 森林の市（もりのいち）と、北の恵み食ベマルシェ 2024 に林業PRブースを出展し、旭川市森林絵巻の展示や、木のアクセサリーづくり体験、林業・木材産業について専門的に学ぶことができる「北海道立北の森づくり専門学院」（以下「北森カレッジ」という。）のPRを実施しました。

1 第37回 森林の市（もりのいち）

森林の市は、地域の方々が木に触れ、遊びながら、木の持つ優しさや温かさを実感するとともに、道産材や間伐材の利用について理解を深めることを目的として、林業及び木材産業の関係機関・団体の共催により年に一度開催されています。

森づくり専門部会では、7月28日（日）に開催された第37回森林の市の木育体験コーナーに林業PRブースを出展し、旭川の風景の中で林業・木材産業が行われているイメージのイラスト「旭川市森林絵巻」の展示と、旭川市有林の皆伐残材のトドマツを利用した「木のアクセサリーづくり」を行いました。

PRブースは大変好評で、開会直後から常に行列が絶えず、用意した250個分のアクセサリー材料は全てなくなりました。子どもから高齢者まで、幅広い世代の方々が楽しみながらアクセサリーづくりに取り組む様子が見られました。輪切りの枝から木製品へと変わっていく過程を体験することで、林業や木材産業について、より身近に感じていただけたと思います。

そのほか、会場では高性能林業機械のデモンストレーションや、丸太切り大会などが行われ、大盛況のうちに終了しました。



旭川市森林絵巻 協力 北海道森林管理局
絵 平田 美紗子



木のアクセサリーづくり

2 北の恵み 食べマルシェ 2024

9月14日（土）から16日（月・祝）の3日間に開催された北の恵み食べマルシェ 2024に「あさひかわの林業PRブース」として出展しました。

PRブースでは「北森カレッジ」のPRと、地域材のトドマツ・カラマツを利用した「木のアクセサリーづくり体験」、旭川市森林絵巻の展示を行いました。

北森カレッジPRコーナーでは学院の紹介動画の上映やパンフレットの配布、防護服・チェーンソーの展示を行いました。ブースは親子連れや観光客などでにぎわい、チェーンソーを手にとった記念撮影やヘルメットの装着体験をするなど、思い思いに楽しむ姿が見られました。

木のアクセサリーづくりコーナーでは、地域材のトドマツとカラマツの2種の木材を利用したネックレス・キーホルダーづくりを行いました。それぞれの樹種の風合いや硬さなどの違いを感じながら、真剣に作品づくりに取り組む様子が見られました。

14日には旭川駅前広場会場ステージイベントに「北森カレッジによるチェーンソーデモンストレーション」として、北森カレッジの1年生4名が出演し、立木に見立てた丸太に、木を安全に切り倒す際に必要な切れ込みを作る「受け口作成」と、受け口の方向測定の実演を行いました。迫力あるチェーンソーの音に多くの来場者が足を止め、生徒達の巧みな技を食い入るように見つめていました。狙いどおりに完成した受け口の測定結果に、会場からは大きな拍手が送られました。



あさひかわの林業PRブース



北森カレッジによる
チェーンソーデモンストレーション

森林・林業に関することは、
農林整備課森林振興係（25－7729）まで御連絡ください。

I 令和6年 水稻の生育経過と作柄の概要について

【上川農業改良普及センター】

1 生育の経過

(1) 融雪期～春耕起時期

融雪期は、4月8日で平年並（±0）でした。融雪後は気温が高く推移し、降水量も少なかったことから、ほ場の乾燥が進み、耕起作業は平年より5日早い4月21日から始まり、耕起盛期は平年より2日早い4月28日でした。

表1 令和6年度水稻生育期節および作業期

（上川農業改良普及センター生育調査ほ成苗ポットななつぼし）

生育期節				農作業進捗状況			
項目	本年	平年	遅速	項目	本年	平年	遅速
出芽期	4/24	4/25	早1	は種	始	4/14	4/16 早2
活着期	5/28	5/27	遅1		期	4/18	4/20 早2
分けつ始	6/2	6/1	遅1		終	4/24	4/25 早1
幼穂形成期	6/26	6/26	±0	耕起始		4/21	4/26 早5
止葉期	7/10	7/11	早1	耕起盛期		4/28	4/30 早2
出穂始	7/18	7/19	早1	移植	始	5/16	5/17 早1
出穂期	7/22	7/23	早1		期	5/21	5/22 早1
出穂揃	7/28	7/28	±0		終	5/27	5/28 早1
成熟期	9/7	9/10	早3	収穫	始	9/9	9/15 早6
					期	9/18	9/24 早6
					終	9/29	10/4 早5

(2) は種～移植期

は種作業について、は種始が4月14日、は種期が4月18日でそれぞれ平年よりも2日早くなりました。育苗期間（は種期～移植期）は、平年並の32日間でした。は種後の出芽は良好で、出芽期は平年より1日早い4月24日となりました。は種後は高温傾向で推移し、移植時の苗質は、草丈がやや長い傾向でしたが、葉数は基準値に近く、乾物重も重かったため、苗質の評価は「並」でした（表2）。移植期は5月21日で、平年よりも1日早く、移植作業は比較的順調に進みました。

表2 移植時の苗質（R6 普及センター調査ほななつぼし（成苗ポット））

	草丈 (cm)	第一鞘高 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本)	乾物重 (g/100本)
R6年	16.1	2.2	4.4	1.7	5.20
平年	14.5	2.5	4.3	1.7	4.50
平年差	1.6	-0.3	0.1	0	0.70

(3) 移植後の茎数の推移

5月4半旬は好天に恵まれましたが、5半旬・6半旬が低温・寡照となったため、稲の活着および分けつの発生に影響が見られました。7月以降は高温・多照傾向で推移しましたが、最終的な㎡当たり穂数は初期茎数不足が影響し、588本（平年比95%）と平年よりもやや少なくなりました。

- (4) 幼穂形成期～出穂期・開花期
幼穂形成期は6月26日で、平年並(±0)でした。

出穂期は平年より1日早い7月22日となりました。出穂期間(出穂始～出穂揃)は10日間と平年より1日長い日数となりました。

- (5) 登熟期間～収穫

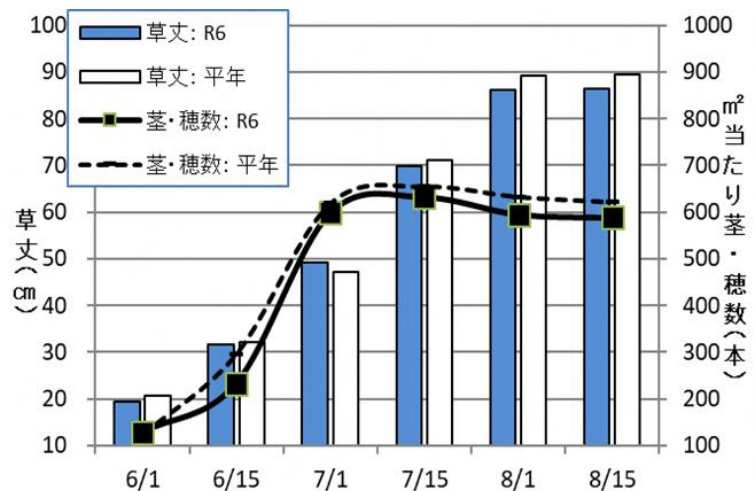
8月の平均気温は平年比113%、日照時間は平年比105%と平年を上回りました。落水後は数日おきにまとまった降雨があり、ほ場の土壌水分が維持されました。そのため、登熟は順調に進み成熟期は平年より3日早い9月7日となりました。

収穫始は平年より6日早い9月9日となりました。9月の降水量は平年比67%と、収穫期間中は好天に恵まれ、収穫作業は順調に進み、収穫終は平年より5日早い9月29日となりました。

- (6) 収量構成要素・決定要素

普及センター生育調査ほ場の「ななつぼし」を平年と比較すると、 m^2 当たり穂数がやや少なく、1穂粒数と稔実歩合は平年並で、総粒数および稔実粒数はやや少なくなりました。屑米重は12%少なく、登熟歩合は85%とやや高くなりましたが、精玄米重は97%とやや少なくなりました。

「ゆめぴりか」は、 m^2 当たり穂数は平年並でしたが、1穂粒数がやや多く、総粒数および稔実粒数もやや多くなりました。千粒重もやや重く、登熟歩合もやや高かったことから精玄米重は平年比111%となりました。



(普及センター生育調査ほ場 成苗ポットななつぼし)

※茎・穂数(本/ m^2)は8/15のみ穂数を示す

表3 品種別の収量構成要素・決定要素

品種	年次	穂数 (本/ m^2)	一穂粒数 (本/穂)	総粒数 (粒/ m^2)	稔実歩合 (%)	稔実粒数 (粒/ m^2)	精玄米重 1.9mm上 (kg/10a)	屑米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	等級	登熟歩合 (%)
ななつぼし	本年	588	58.7	34,516	95.6	32,997	651	22	22.6	1.0	84.8
	平年	622	58.6	36,264	95.5	34,632	668	25	22.6	1.2	82.2
	平年比	95%	100%	95%	0.1	95%	97%	88%	100%	-	2.6
ゆめぴりか	本年	687	52.3	35,812	93.9	33,627	685	41	23.5	1.0	82.6
	平年	693	49.4	34,040	94.1	32,032	618	30	23.1	1.3	78.6
	平年比	99%	106%	105%	-0.2	105%	111%	137%	102%	-	4.0

* 千粒重の篩目は、1.9mm

- (7) 蛋白質含有率

「ななつぼし」の全道における低蛋白米(蛋白質含有率6.8%以下)出荷率は、前年を大きく上回り19.6%となりました。ホクレン旭川支所の低蛋白米出荷率は、17.2%と全道平均をやや下回りました。ホクレン旭川支所における「ゆめぴりか」の低蛋白米(第一区分S)の出荷割合は22.0%、生産基準となる第一区分以上では92.2%でした。

2 令和6年産の収量・品質の考察

(1) 収量

普及センター生育調査ほ場では、移植後の低温・寡照の影響で初期生育が緩慢となり、有効分げつを十分に確保できず、穂数が少なくなりました。また、遅発分げつが多くなったことから1穂数で穂数不足をカバーすることができず、最終的な収量は平年よりもやや少なくなったと考えられます。

一方で、移植のタイミングや移植後の水管理などによって天候の影響を回避し、初期茎数を確保できたほ場については平年作以上の収量となっている場合も多く、初期生育の良否による収量のは場間差が大きい年だったと推察されます。

(2) 蛋白質含有率

普及センター生育調査ほでの「ななつぼし」の蛋白質含有率は、平均 6.9%となりました。

水田土壌中のアンモニア態窒素の推移(図2)を見てみると、6月15日の調査開始時点では平年よりも窒素の発現量が多かったですが、その後は急速に低下しており、7月15日までに多くの窒素が稲体に吸収されたと考えられます。

その後は8月15日まで平年よりも小さく推移し、生育後半の残存窒素が少なかったことがうかがえます。初期の土壌窒素は多かったものの、生育前半に多くの土壌窒素が利用され、生育後半に吸収される窒素量が少なくなったことにより、蛋白質含有率の上昇が抑えられたと推察されます。

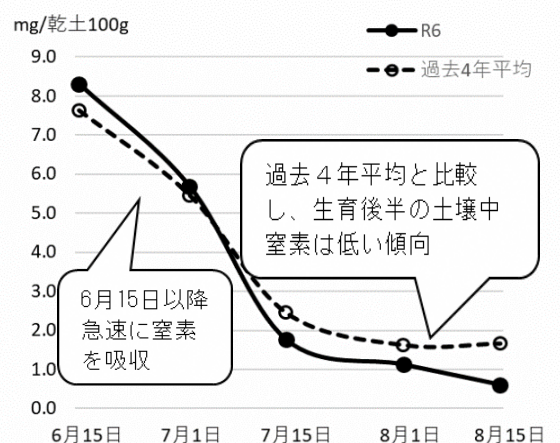


図2 水田土壌中アンモニア態窒素の推移

3 倒伏と雑草について

(1) 倒伏対策（昨年ほどではありませんが、倒伏ほ場が散見されました）

① 窒素施肥量の適正化

施肥量が多いと葉身、稈などが伸長し、稈基部が軟弱となり倒伏しやすくなります。土壌診断結果に応じた施肥量の遵守、後出来を抑えるために側条施肥割合を高める等の対処が必要です。

② 水管理

適期の中干しを実施により、根の健全化、ほ場の地固めになり、倒伏軽減に効果があります。落水後も間断かんがいを行い、十分な土壌水分を保つことで下葉の枯上がりによる倒伏の助長を抑えましょう。

③ ケイ酸資材の施用（土壌診断値から 180～210 kg/10a を必要量とするほ場が多い）

ケイ酸資材は稲体を丈夫にし、耐倒伏性向上の効果があります。基肥と追肥を組み合わせ、十分な量のケイ酸を施用しましょう。

④ 倒伏軽減剤の施用

生育過剰気味で倒伏が懸念される場合、倒伏軽減剤の使用を検討します。十分な効果を得るために、ほ場をよく観察し、出穂を開始する前の施用を心がけましょう。

(2) 雑草対策（近年発生量が多くなっている草種について）

適期葉齢での除草剤散布と草種に応じた効果的な成分剤を選択が重要です。

① ヒエ（タイヌビエ） 1年草



② シズイ 多年草（ピリミスルファンなど）



主に塊茎で増殖、一度発生すると根絶することが難しい。特徴は茎が三稜形

③ ホタルイ 多年草
（ブロモブチドなど）④ オモダカ 多年草
（フェンキノトリオンなど）

主に塊茎で増殖、葉がキツネの顔のような形に見える

4 病害虫の発生状況

発生量は病害虫ともに「並」でしたが、吸汁による斑点米の被害、いもち病や紋枯病の局所的発生、「ヒメトビウンカ」による縞葉枯病の発生や、葉のすす症状が局所的に見られました。これら病害虫の蔓延防止に向けて、発生予察と適正防除の実施が重要となります。

表 4 水稻病害虫の発生状況（R6）

病害虫名	初発時期	発生量	面積割合(%)		備考
			発生	被害	
いもち病（葉）	—	並	なし	なし	局所的に発生確認（発生は1%以下）
いもち病（穂）	—	並	なし	なし	局所的に発生確認（発生は1%以下）
紋枯病	8月2半旬	並	6.0	なし	
縞葉枯病	6月2半旬	並	3.0	なし	
ばか苗病	—	並	なし	なし	局所的に発生確認（発生は1%以下）
イネドロオイムシ	—	並	なし	なし	局所的に発生確認（発生は1%以下）
アカヒゲホソミドリカスミカメ	6月5半旬	並	9.0	なし	
ヒメトビウンカ	6月2半旬	並	8.0	なし	
フタオビコヤガ	6月6半旬	並	1.0	なし	

注：調査地点は旭川市・鷹栖町・当麻町・比布町・愛別町

Ⅱ 令和6年 畑作作柄の概要について

【上川農業改良普及センター】

1 秋まき小麦「きたほなみ」

(1) 生育経過

- ① は種期は9月16日（遅1）、出芽期は9月20日（早2）と平年並みで、越冬前茎数は1,237本/㎡（平年比135%）でした。
- ② 起生期は4月8日（遅5）と遅かったが、起生期以降が高温で推移したことから、幼穂形成期は5月2日（±0）となりました。
- ③ その後も総じて高温で推移したことから、止葉期は5月19日（早4）、出穂期は5月29日（早3）となりました。
- ④ 7月は高温だったが適度な降雨もあり、成熟期は7月12日（早1）となりました。
- ⑤ 一部で赤さび病の発生は見られましたが、赤かび病の発生は見られませんでした。

表1 生育経過

調査基準日		10/1	10/15	越冬前	起生期	5/15	6/1	6/15		7/1	7/15
草丈 (cm)	6年産	15.2	21.1	—	—	47.3	80.8	90.6	稈長 (cm)	83.2	83.2
	平年	8.5	15.9	—	—	35.2	71.1	83.5		81.9	82.4
葉数 (葉)	6年産	2.9	4.4	—	—	—	—	—	穂長 (cm)	9.2	9.2
	平年	1.7	4.0	—	—	—	—	—		9.1	9.2
㎡茎数 (本)	6年産	275	677	1,237	1,549	1,021	832	635	㎡穂数 (本)	632	632
	平年	193	481	912	1,231	1,284	893	742		677	677

表2 生育・作業期節

生育期節	6年産	平年	差	作業期節				
出芽期	9/20	9/22	+2	は種	始	9/5	9/6	+1
起生期	4/8	4/3	△5		期	9/16	9/15	△1
幼穂形成期	5/2	5/2	±0		終	9/28	9/25	△3
止葉期	5/19	5/23	+4	収穫	始	7/18	7/20	+2
出穂期	5/29	6/1	+3		期	7/20	7/23	+3
成熟期	7/12	7/13	+1		終	7/27	7/29	+2

(2) 収量・品質

穂数は632本/㎡（平年比93%）と少なかったですが、一穂粒数が23.4粒（平年比118%）と多く、千粒重も40.8g（平年比107%）と重かったことから、子実重は625kg/10a（平年比127%）となりました。タンパク値は11.1%でした。

表3 収量・品質

項目	㎡穂数 (本)	一穂粒数 (粒)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	タンパク (%)	等級
6年産	632	23.4	625	40.8	11.1	1
平年	677	19.9	493	38.3	11.3	1.1
平年比(%)	93	118	127	107	—	—

2 大豆「とよみづき・ユキホマレR」

(1) 生育経過

- ① 5月下旬の降雨により、は種期は5月31日（遅4）と遅れ、出芽期も6月9日（遅5）となりました。
- ② 出芽後は気温と日照に恵まれたことで、開花期は7月16日（遅2）、成熟期は9月17日（±0）となりました。

表4 生育経過

調査基準日		6/15	7/1	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15
草丈 (cm)	6年	2.1	13.5	32.5	54.7	57.9	57.9	57.9
	平年	5.9	21.7	49.1	66.9	69.5	69.7	69.7
葉数 (葉)	6年	0.1	2.0	5.4	8.0	8.4	8.4	8.4
	平年	0.2	3.1	6.7	9.0	9.4	9.4	9.4
着莢数 (莢/m ²)	6年	—	—	—	—	736	772	797
	平年	—	—	—	—	589	648	644

表5 生育・作業期節

生育期節	6 年	平年	差					
出芽始	6/7	6/2	△5					
出芽期	6/9	6/4	△5					
開花始	7/15	7/12	△3					
開花期	7/16	7/14	△2					
成熟期	9/17	9/17	±0					

(2) 収量・品質

収量は、着莢数は797 莢/m²（平年比 123%）、一莢内粒数は1.5 粒（平年比 102%）と平年並でしたが、百粒重が35.6 g（平年比 110%）と重かったため、子実重は355 kg/10 a（平年比 121%）となりました。等級は、2.3 等でした。

表6 収量・品質

項目	着莢数 (莢/m ²)	一莢内 粒数 (粒)	子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)	等級
6年	797	1.5	355	35.6	2.3
平年	648	1.4	293	32.5	2.4
平年比(%)	123	102	121	110	—

Ⅲ 令和6年 園芸作物の概況について

【上川農業改良普及センター】

1 野菜の主要品目の概況

生育
状況

品目	作型	作業・出荷・生育の経過
きゅうり	半促成	定植後は概ね順調に生育し、出荷始は平年並だった。5月下旬以降の天候不順により生育がやや緩慢になり、6月の出荷量は平年より減少した。6月6半旬以降、気温が高めに推移し、8月以降の出荷量は概ね平年並となった。病害虫はハダニ類、アブラムシ類やべと病、うどんこ病の発生が目立った。単価は年間を通じて高値で推移し、販売額は増加した。
ほうれんそう	晩春～秋まき (雨よけ)	生育は5月5～6半旬の低温で一時停滞し、6月まで出荷が停滞した。7月上旬～8月中旬は種の作型では、高温により生育はやや遅れたものの、令和5年より影響が少なく、出荷量は一定程度確保できた。総じて出荷量は平年並～やや少なく、単価は令和5年に次ぐ高水準を維持した。病害虫は高温期に萎凋病と、主にハウレンソウケナガコナダニの発生がみられた。
ミニトマト	半促成 長期どり	定植後は寒暖差が大きく生育が緩慢になる時期もあったが、6月以降の生育は高温傾向により順調に進んだ。病害は葉かび病、うどんこ病がみられ防除が遅れたほ場では蔓延した。出荷量は作付面積の縮小により減少した。単価は平年より高く推移した。
ピーマン	(無加温) 半促成	定植後は寒暖差が大きく生育の停滞がみられ、果形はやや細長い傾向が続いたが、6月以降の生育は高温傾向により順調に推移し、果形は安定した。8月頃からは着果負担に伴い生育がやや緩慢となったほか、日焼け果の発生がみられた。害虫はアブラムシ類、ハダニ類の発生がみられた。出荷量は作付面積の拡大により増加した。単価は年間を通して安定していた。

こまつな	晩春～秋まき (雨よけ)	5月下旬の低温・日照不足により生育は一時緩慢となったが、以降は生育・出荷ともに順調であった。 コナガ成虫の飛来は例年より早く、5月中旬頃から確認された。モンシロチョウは発生時期が6月3半旬～9月と長く、成虫の飛来・幼虫の食害が散見された。高温の影響は昨年よりやや少ないものの、下葉の黄変、収穫作業の遅れに伴い、品質の低下がみられた。収穫作業は、こまつな、チンゲンサイ共に11月下旬に終了した。
チンゲンサイ	春～秋定植 ハウス	
メロン	加温半促成～ トンネル早熟	3月のは種時期から4月上旬の育苗時期は、気温が高く推移し生育は順調だった。5月5～6半旬の低温で生育は緩慢となったが、その後は順調に進んだ。病害虫はアブラムシ、うどんこ病の発生が一部でみられた。7月中旬以降も気温が平年より高く推移したが、糖度は17度前後(出荷糖度の基準15度以上)で内部品質は良かった。収量と単価は例年並に推移した。
おうとう	露地 (雨よけ)	開花始は5月7日で平年より2日早かった。開花時期の5月2～3半旬の低温、5月2半旬の寡照により訪花昆虫の活動も鈍くなり、結実量は平年比80%となった。最高気温は6月5半旬で平年より低かったが、最低気温は6月5半旬～7月1半旬は平年並、それ以外では高く推移したため、肥大、着色、成熟は順調に進み、収穫始は平年より5日早い7月1日となった。7月1～4半旬までの少雨に加え、結実量も平年より少ない傾向のため収穫作業は進んだ。1果重は平年比111%と重く、Brix値による糖度は平年比98%と平年並だった。病害虫はシンクイムシ類や黒星病が一部の園地で発生した。
りんご	露地	開花始は5月16日と平年より3日早かった。5月5半旬に平年を下回る気温となり開花の進みは緩慢となったが、その後の生育は順調に進んだ。果実肥大は降雨により順調に進み、収穫直前での果実体積は平年比104%となった。収穫始は9月25日で平年並となった。果実品質は、9月の最高気温が平年より高く、最低気温が平年並となったため、良好であった。硬度は平年比107%と堅く、酸度は平年比94%、着色は8.5と平年並、糖度は14.8%(Brix値)で平年比110%であった。また、果実肥大が順調だったため、1果重は平年比107%と大きく、収量は平年比103%と平年並であった。

I 水稲直播研究会実態調査の分析結果

【上川農業改良普及センター】

1 概要

令和元年度から導入されている「えみまる」について J A あさひかわでの実態調査結果を踏まえた分析結果について御紹介します。

J A あさひかわ直播研究会は、平成 20 年に設立し、水稲湛水直播は種機の共同利用、技術研鑽を目的に発足しました。令和元年度より「えみまる」を導入し、苗立調査、幼穂形成期調査、成熟期調査と 3 回生育調査を実施しています。冬期は反省会を実施し、当年の生育経過や実績について会員で共有しています。

令和 4 年度よりドローンは種を実施しており、は種作業を J A あさひかわ購買部が実施しております。



写真 1 生育調査の様子



写真 2 ドローンは種作業の様子



写真 3 ドローンは種の様子

2 「えみまる」について

直播向け品種である「えみまる」は、「ほしまる」より低温苗立性に優れ、いもち病に強い性質を持っています（図 1）。また、玄米品質に優れ、収量がやや多く、食味は「ななつぼし」並となっています。道内での一般的な栽培指標は表 1 のようになっており、J A あさひかわの栽培と相違があるか分析を行う必要があります。

表 1 目標収量 540kg/10a での指標

総粒数	31,000 粒/㎡
穂数	660 本/㎡
出穂期茎数	720 本/㎡
幼穂形成期茎数	690 本/㎡
苗立本数	150 本/㎡

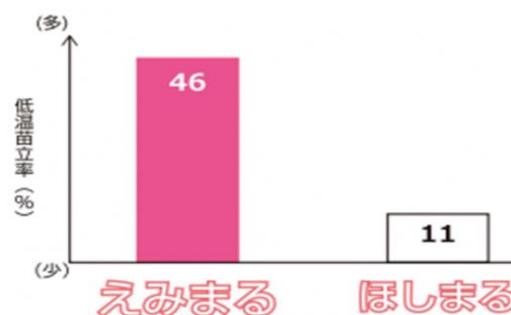


図 1 低温苗立率の比較（農産協会資料より）

3 J A あさひかわの直播栽培状況と生育調査からの分析について

「えみまる」を導入した令和元年度からの苗立率は平均 55.7% と安定して 50% 程度を確保しています（図 2）。は種量を年々低下させて栽培を行っています（図 3）。

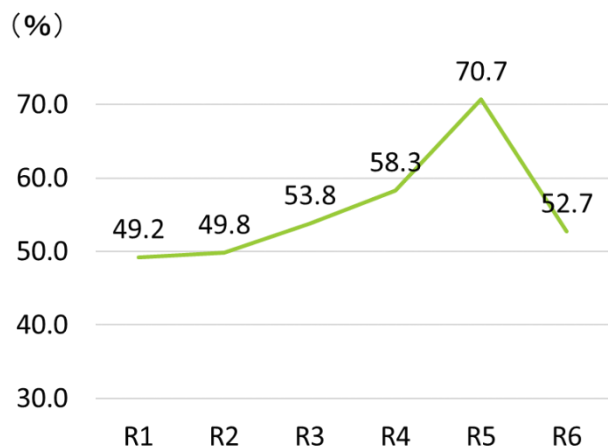


図2 年次ごとの苗立率（千粒重 29g の場合）

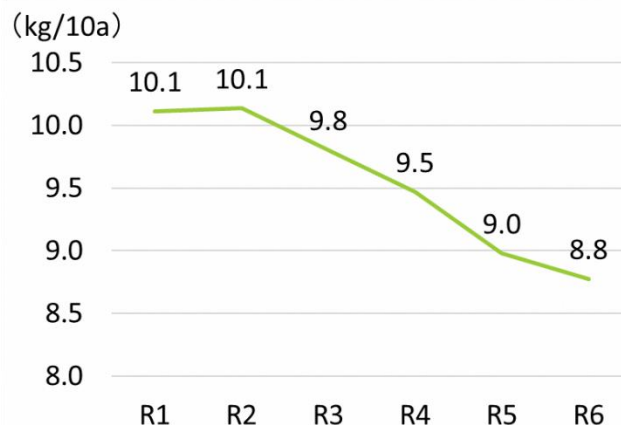


図3 年次ごとののは種量

は種量 9～10kg/10a で苗立過剰になる事例が多く見られました。そのため、7～8 kg/10a のは種量が適正と考えられます(図4)。目標穂数と生育調査の比較では、令和元年度から目標穂数を確保していますが、は種量が多い年次では、 m^2 穂数が多くなりやすい傾向が見られました(図5)。

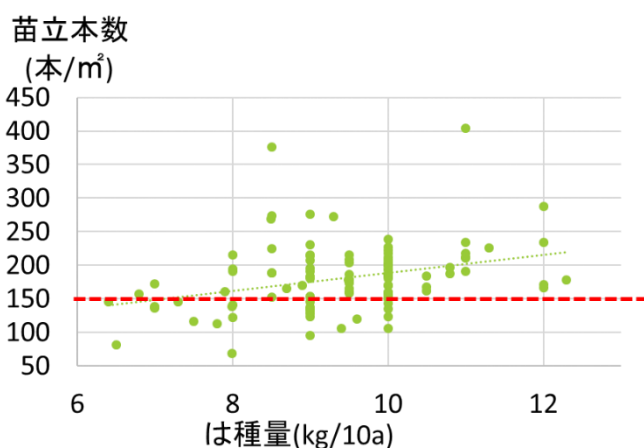


図4 苗立本数とは種量の関係(R1～6)

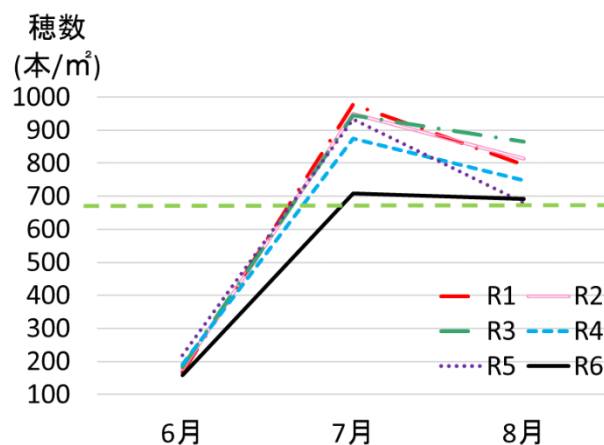


図5 目標穂数と生育調査の比較(R1～6)

実収量は年次変動や個人差が大きく、目標収量の 540kg/10a に達していない年もありました。過去5年の実収量の平均は 557kg/10a となっています(図6)。

苗立本数 150～200 本/ m^2 、穂数 640～930 本/ m^2 で実収が高い傾向でした。苗立本数が多すぎても、実収は伸び悩んでいます(図7、8)。

倒伏率は穂数 700 本/ m^2 以上、稈長 70cm 以上で高くなる傾向が見えますが、倒伏率は達観での調査のため、誤差が大きくなっています(図9、10)。

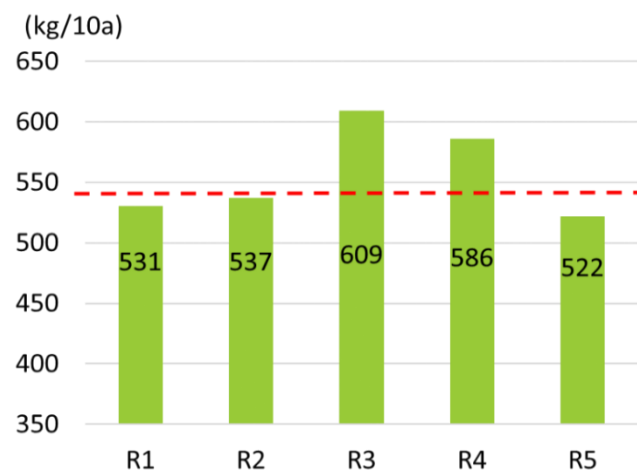


図6 実収量の推移(R1～5)

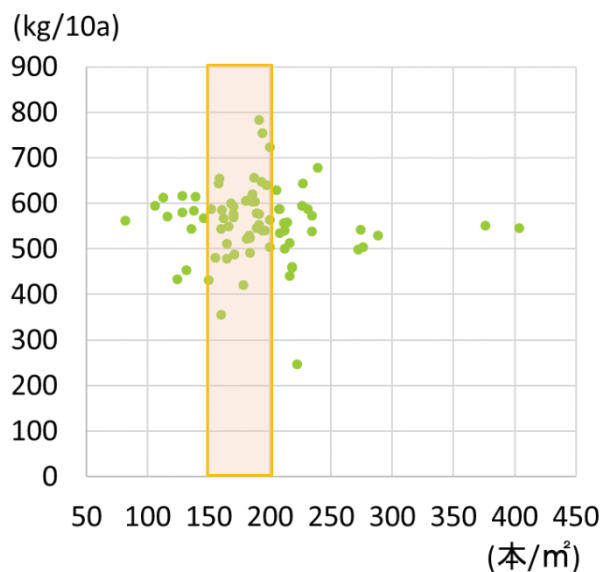


図7 苗立本数と実収量の比較 (R 1 ~ 5)

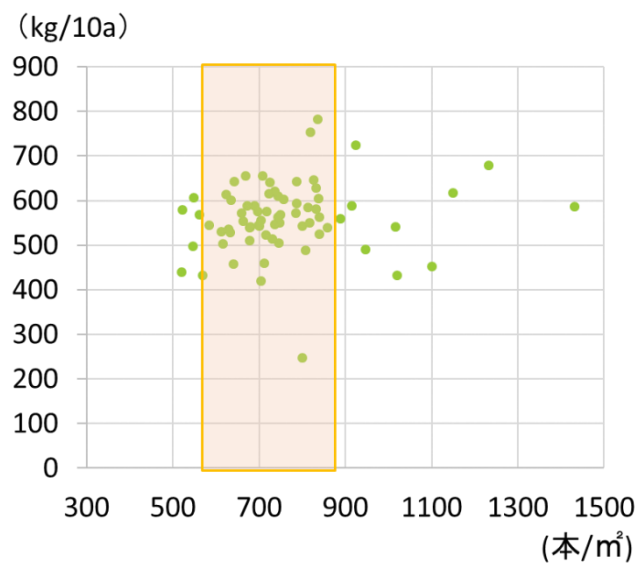


図8 m²穂数と実収量の比較 (R 1 ~ 5)

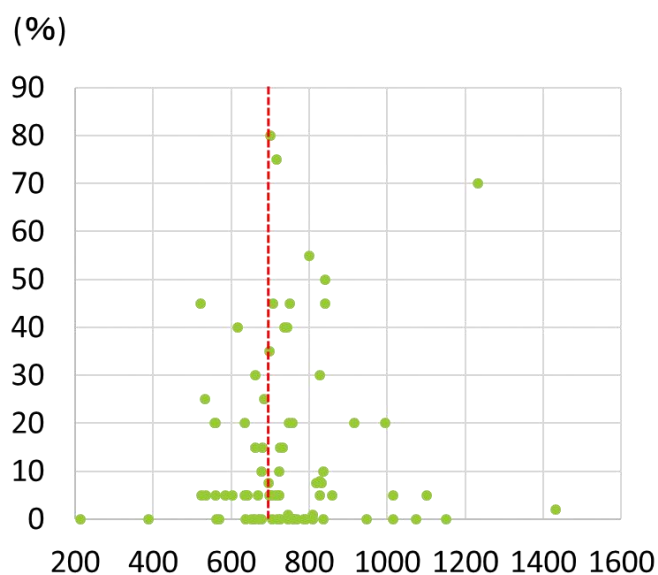


図9 m²穂数と倒伏率の比較 (R 1 ~ 6) (本/m²)

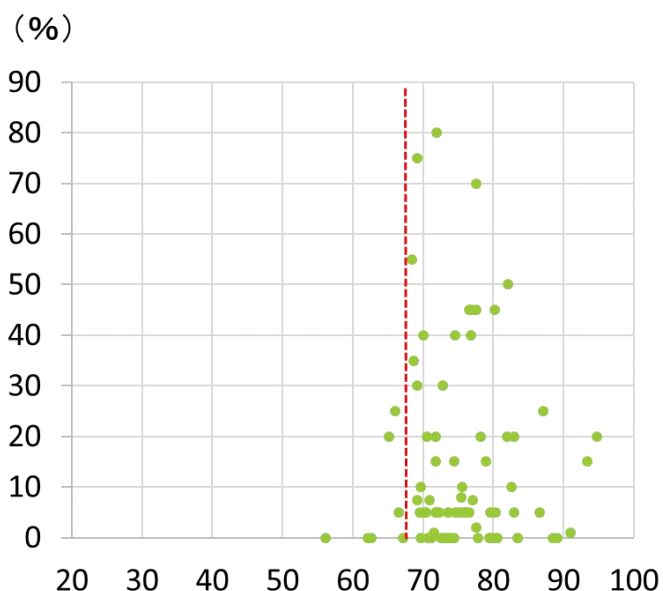


図10 穂長と倒伏率の比較 (R 1 ~ 6) (cm)

7月中旬頃の草丈と倒伏率を比較すると、草丈 55cm 以上で倒伏率が高くなる傾向が見られます(図 11)。

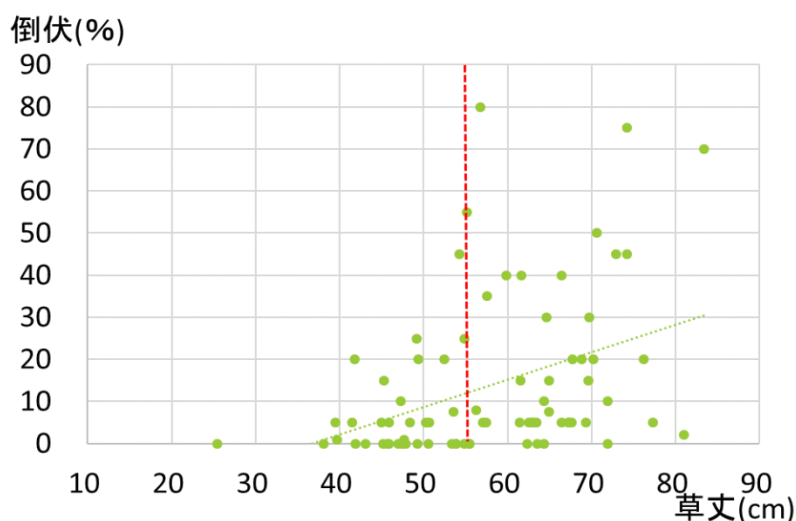


図11 7月中旬頃の草丈と倒伏率の比較 (R 1 ~ 6)

4 播種様式による生育経過の比較について

乗用点播機とドローン散播の生育に相違があるか分析を行いました。苗立本数、苗立率共にドローン散播の方が高い傾向が見られました(図12)。また、ドローン散播は稈長が短く、 m^2 穂数がやや多く、倒伏率が高い傾向でした(図13)。

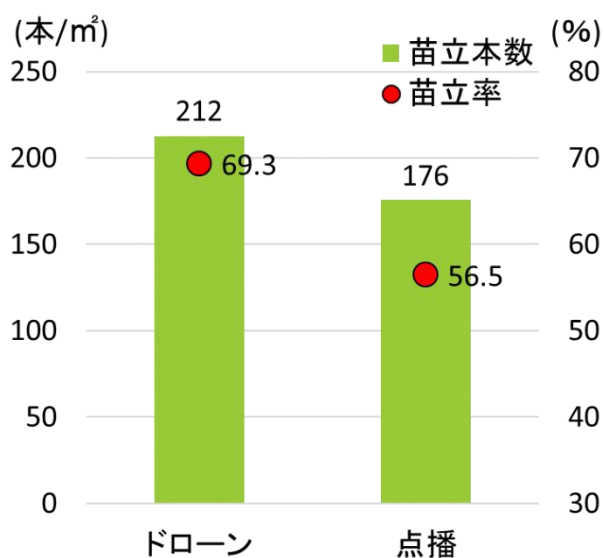


図12 苗立本数と苗立率の比較(R4～6)

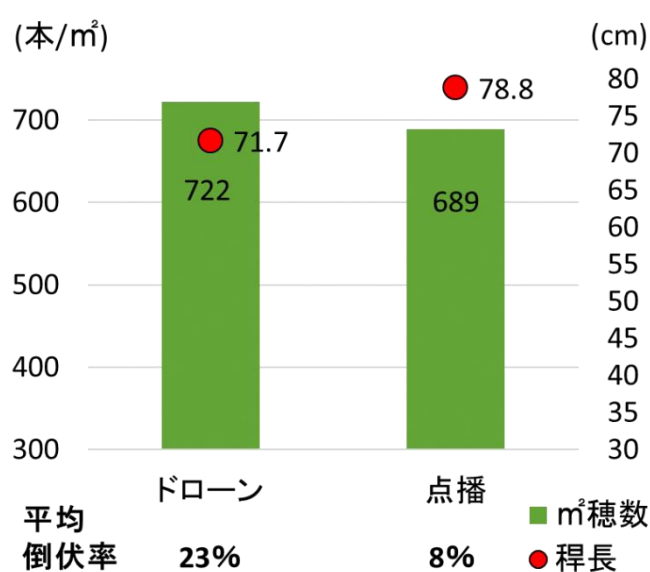


図13 稈長と m^2 穂数、倒伏率の比較(R4～6)

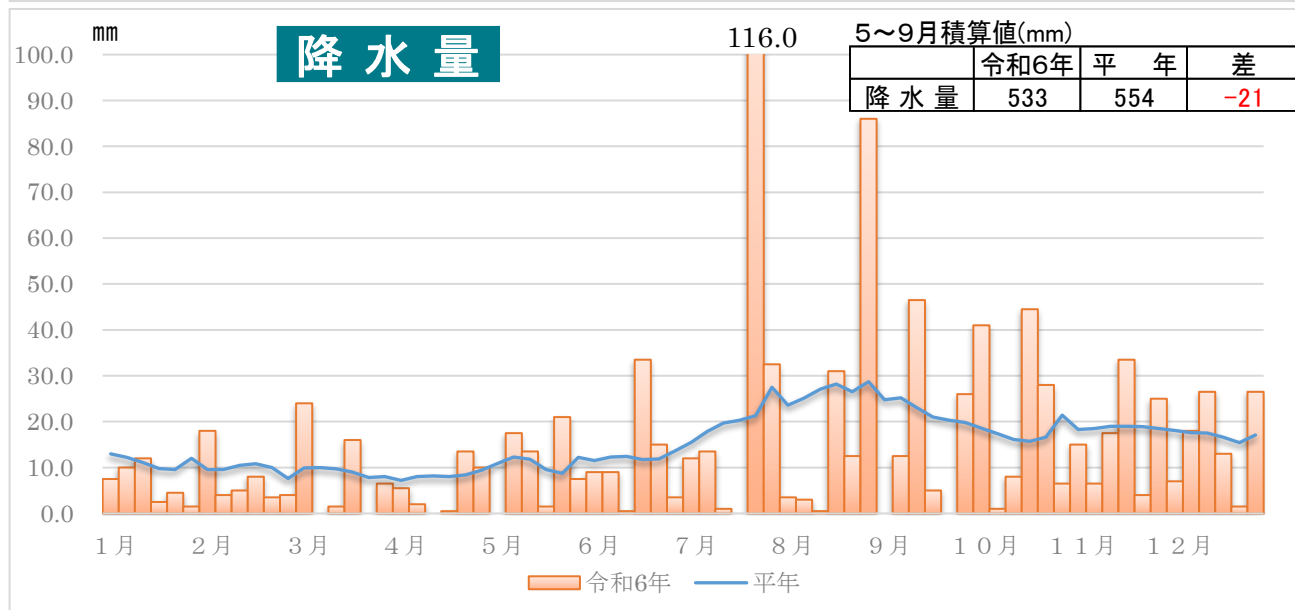
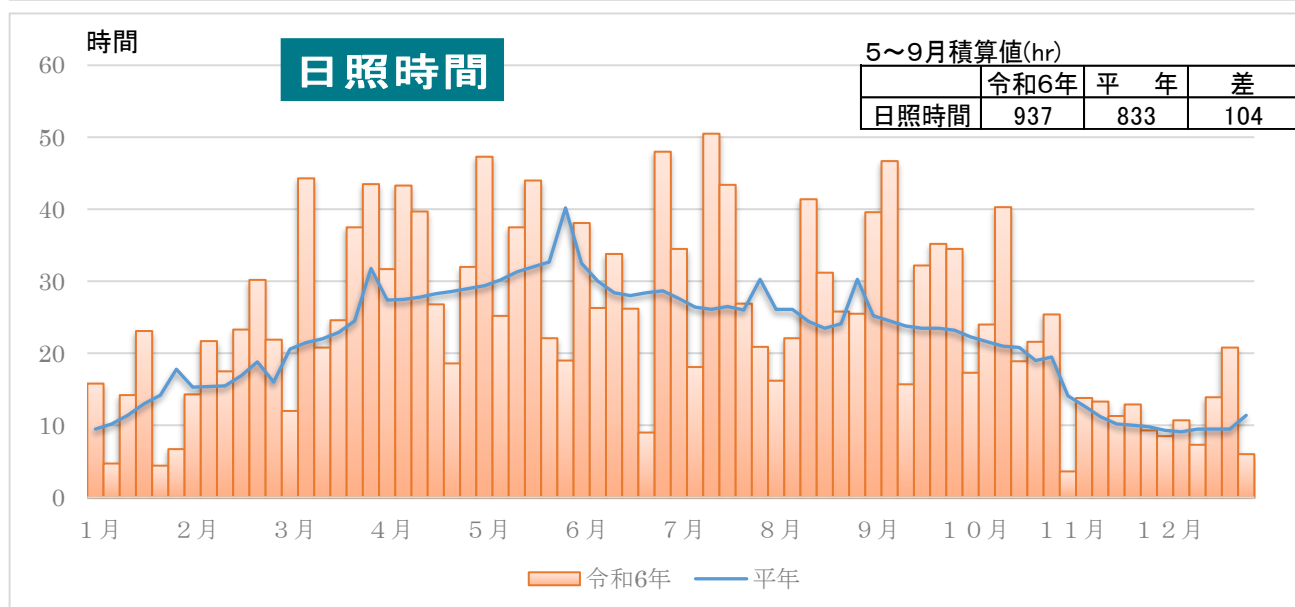
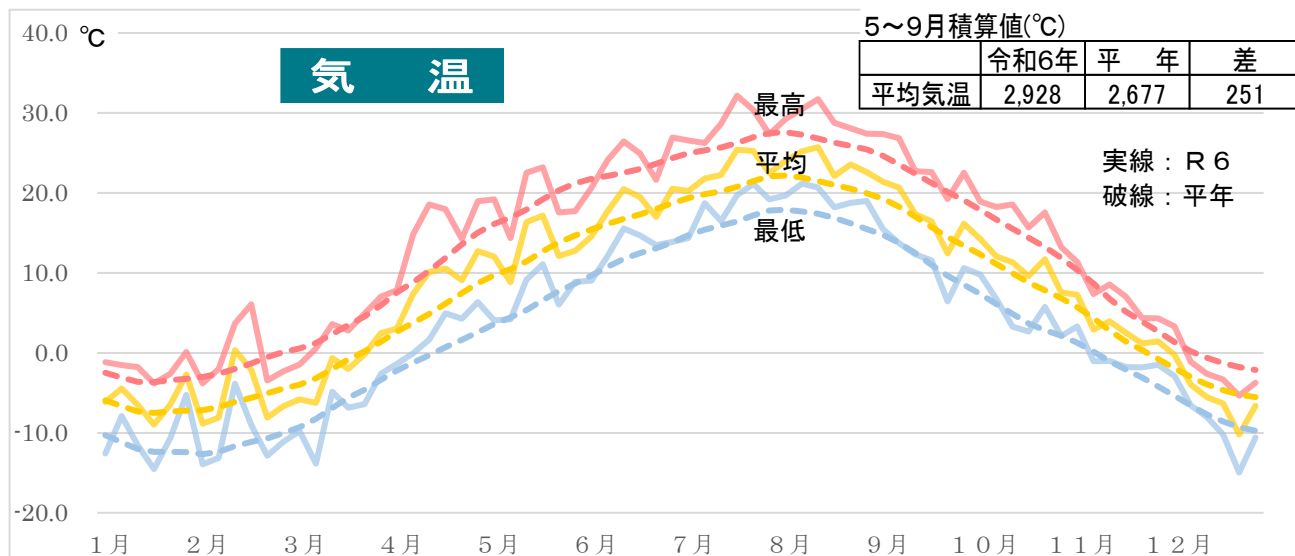
5 まとめ

以上の分析結果より、JAあさひかわでの湛水直播栽培目安を表2のようにまとめました。今後は栽培目安の検証、ドローン散播の生育指標作成や倒伏要因の分析を進める必要があると考えられます。

表2 JAあさひかわ湛水直播栽培目安

10aは種量	7～8kg/10a
苗立本数	150～200本/ m^2
m^2 穂数	640～700本/ m^2
倒伏軽減剤使用目安	7月中旬の草丈55cm以上
目標収量	540kg/10a

I 令和6年 旭川市における気象の経過



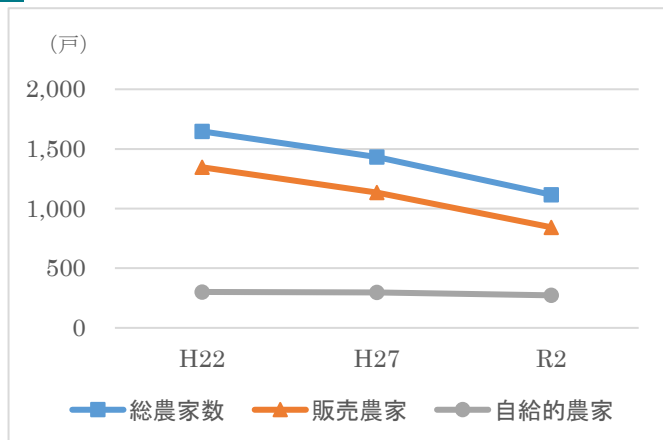
令和6年気象経過

観測地：旭川（平年値：1991年～2020年）

月	半旬	令和6年					平年					平年差				
		気温		日照時間	降水量		気温		日照時間	降水量		気温		日照時間	降水量	
		平均	最高				平均	最高				平均	最高			
1月	1	-6.1	-1.2	-12.6	15.8	7.5	-5.9	-2.5	-10.3	9.5	13.0	-0.2	1.3	-2.3	6.3	-5.5
	2	-4.4	-1.5	-7.9	4.7	10.0	-6.7	-3.1	-11.2	10.2	12.2	2.2	1.6	3.3	-5.5	-2.2
	3	-6.5	-1.8	-11.5	14.2	12.0	-7.3	-3.6	-12.0	11.4	11.1	0.8	1.8	0.5	2.8	0.9
	4	-9.0	-3.8	-14.5	23.1	2.5	-7.5	-3.7	-12.4	13.0	9.8	-1.5	-0.2	-2.2	10.1	-7.3
	5	-6.4	-2.6	-10.7	4.4	4.5	-7.3	-3.4	-12.4	14.2	9.6	0.9	0.8	1.7	-9.8	-5.1
	6	-2.7	0.1	-5.3	6.7	1.5	-7.2	-3.2	-12.4	17.8	12.0	4.5	3.4	7.1	-11.1	-10.5
2月	1	-8.9	-3.8	-13.9	14.3	18.0	-7.2	-3.0	-12.7	15.3	9.6	-1.7	-0.8	-1.3	-1.0	8.4
	2	-8.1	-2.0	-13.1	21.7	4.0	-6.8	-2.6	-12.4	15.4	9.6	-1.3	0.6	-0.8	6.3	-5.6
	3	0.4	3.7	-3.9	17.5	5.0	-6.1	-2.0	-11.6	15.5	10.5	6.5	5.7	7.8	2.0	-5.5
	4	-2.1	6.1	-9.0	23.3	8.0	-5.6	-1.3	-11.1	16.9	10.8	3.5	7.4	2.1	6.4	-2.8
	5	-8.1	-3.5	-12.9	30.2	3.5	-5.0	-0.5	-10.7	18.8	10.0	-3.1	-2.9	-2.2	11.4	-6.5
	6	-6.7	-2.3	-11.1	21.9	4.0	-4.5	0.1	-10.0	16.0	7.6	-2.2	-2.4	-1.1	5.9	-3.6
3月	1	-5.8	-1.5	-9.8	12.0	24.0	-4.0	0.5	-9.3	20.6	9.9	-1.8	-2.0	-0.5	-8.6	14.1
	2	-6.3	0.6	-13.8	44.3	0.0	-3.2	1.2	-8.2	21.5	10.0	-3.1	-0.7	-5.6	22.8	-10.0
	3	-0.6	3.6	-4.9	20.8	1.5	-2.0	2.3	-6.9	22.0	9.7	1.4	1.3	2.0	-1.2	-8.2
	4	-2.0	2.8	-6.9	24.6	16.0	-0.8	3.5	-5.6	22.9	9.0	-1.2	-0.7	-1.2	1.7	7.0
	5	-0.2	4.9	-6.4	37.5	0.0	0.2	4.5	-4.6	24.5	7.8	-0.4	0.4	-1.8	13.0	-7.8
	6	2.5	7.1	-2.6	43.5	6.5	1.4	6.0	-3.4	31.8	8.0	1.1	1.1	0.8	11.7	-1.5
4月	1	3.0	7.8	-1.4	31.7	5.5	2.7	7.5	-2.2	27.4	7.2	0.3	0.3	0.8	4.3	-1.7
	2	7.4	14.8	-0.1	43.3	2.0	3.7	8.8	-1.2	27.5	8.0	3.7	6.0	1.2	15.8	-6.0
	3	10.1	18.5	1.7	39.7	0.0	4.9	10.3	-0.3	27.8	8.2	5.2	8.3	2.0	11.9	-8.2
	4	10.6	18.0	4.9	26.8	0.5	6.2	11.9	0.7	28.3	8.0	4.4	6.1	4.2	-1.5	-7.5
	5	9.1	14.2	4.3	18.6	13.5	7.5	13.6	1.6	28.6	8.4	1.6	0.7	2.6	-10.0	5.1
	6	12.7	18.9	6.3	32.0	10.0	8.7	15.0	2.6	29.0	9.4	4.0	3.9	3.7	3.0	0.6
5月	1	12.0	19.2	4.1	47.3	0.0	9.7	16.1	3.6	29.4	10.9	2.3	3.1	0.5	17.9	-10.9
	2	8.8	14.4	4.2	25.2	17.5	10.5	16.9	4.4	30.2	12.3	-1.7	-2.5	-0.2	-5.0	5.2
	3	16.4	22.5	9.2	37.5	13.5	11.4	17.9	5.3	31.3	11.8	4.9	4.6	3.8	6.2	1.7
	4	17.2	23.2	11.1	44.0	1.5	12.7	19.2	6.6	32.0	9.6	4.5	4.0	4.5	12.0	-8.1
	5	12.1	17.6	6.0	22.1	21.0	13.8	20.3	7.7	32.7	8.7	-1.7	-2.7	-1.7	-10.6	12.3
	6	12.8	17.7	8.9	19.0	7.5	14.7	21.2	8.7	40.2	12.2	-1.9	-3.5	0.2	-21.2	-4.7
6月	1	14.6	20.6	9.0	38.1	9.0	15.4	21.8	9.7	32.5	11.5	-0.9	-1.1	-0.6	5.6	-2.5
	2	17.7	24.1	12.1	26.3	9.0	16.1	22.1	10.8	30.0	12.3	1.6	1.9	1.3	-3.7	-3.3
	3	20.5	26.5	15.5	33.8	0.5	16.8	22.5	11.8	28.4	12.4	3.7	3.9	3.8	5.4	-11.9
	4	19.5	24.9	14.7	26.2	33.5	17.3	23.0	12.5	28.0	11.7	2.2	1.9	2.2	-1.8	21.8
	5	17.0	21.6	13.5	9.0	15.0	18.0	23.7	13.1	28.4	11.9	-1.0	-2.0	0.4	-19.4	3.1
	6	20.5	26.9	13.9	48.0	3.5	18.7	24.4	13.8	28.7	13.6	1.8	2.6	0.0	19.3	-10.1
7月	1	20.2	26.6	14.3	34.5	12.0	19.4	25.0	14.7	27.6	15.5	0.9	1.6	-0.4	6.9	-3.5
	2	21.8	26.2	18.7	18.1	13.5	19.8	25.3	15.4	26.4	17.9	2.0	0.9	3.3	-8.3	-4.4
	3	22.2	28.6	16.5	50.5	1.0	20.2	25.7	15.9	26.1	19.7	2.0	2.9	0.6	24.4	-18.7
	4	25.4	32.2	19.7	43.4	0.0	20.7	26.3	16.4	26.5	20.3	4.7	5.9	3.3	16.9	-20.3
	5	25.2	30.4	21.1	26.9	116.0	21.5	27.0	17.2	26.0	21.3	3.8	3.4	3.9	0.9	94.7
	6	22.5	27.3	19.2	20.9	32.5	22.1	27.5	17.8	30.3	27.5	0.4	-0.2	1.4	-9.4	5.0
8月	1	24.0	29.3	19.7	16.2	3.5	22.2	27.6	17.9	26.1	23.6	1.8	1.7	1.8	-9.9	-20.1
	2	25.2	30.5	21.2	22.1	3.0	21.9	27.3	17.7	26.1	25.1	3.3	3.2	3.5	-4.0	-22.1
	3	25.7	31.7	20.7	41.4	0.5	21.5	26.8	17.4	24.4	27.1	4.2	4.9	3.3	17.0	-26.6
	4	22.1	28.8	18.2	31.2	31.0	21.0	26.3	16.9	23.5	28.2	1.1	2.5	1.3	7.7	2.8
	5	23.6	28.1	18.8	25.8	12.5	20.5	25.9	16.2	24.1	26.5	3.1	2.2	2.6	1.7	-14.0
	6	22.6	27.4	19.0	25.5	86.0	20.0	25.4	15.5	30.3	28.7	2.7	2.0	3.5	-4.8	57.3
9月	1	21.4	27.4	15.5	39.6	0.0	19.3	24.6	14.8	25.2	24.8	2.1	2.7	0.7	14.4	-24.8
	2	20.7	26.9	13.7	46.7	12.5	18.3	23.6	13.8	24.5	25.2	2.4	3.3	-0.0	22.2	-12.7
	3	17.3	22.7	12.3	15.7	46.5	17.0	22.4	12.5	23.8	23.0	0.3	0.3	-0.2	-8.1	23.5
	4	16.4	22.6	11.5	32.2	5.0	15.7	21.2	11.0	23.5	21.0	0.7	1.4	0.5	8.7	-16.0
	5	12.4	19.2	6.4	35.2	0.0	14.5	20.1	9.6	23.5	20.3	-2.0	-0.9	-3.2	11.7	-20.3
	6	16.1	22.5	10.6	34.5	26.0	13.4	19.1	8.5	23.2	19.8	2.7	3.5	2.1	11.3	6.2
10月	1	14.2	18.9	9.8	17.3	41.0	12.3	17.9	7.4	22.3	18.6	1.9	1.0	2.4	-5.0	22.4
	2	12.1	18.2	6.8	24.0	1.0	11.1	16.7	6.1	21.6	17.4	1.0	1.6	0.6	2.4	-16.4
	3	11.3	18.5	3.3	40.3	8.0	9.9	15.5	4.9	21.0	16.1	1.4	3.0	-1.6	19.3	-8.1
	4	9.6	15.7	2.7	18.9	44.5	8.8	14.4	3.7	20.8	15.7	0.8	1.3	-1.0	-1.9	28.8
	5	11.7	17.6	5.8	21.6	28.0	7.8	13.2	2.8	19.0	16.6	3.9	4.3	2.9	2.6	11.4
	6	7.6	13.2	2.1	25.4	6.5	6.9	11.9	2.1	19.5	21.4	0.7	1.4	-0.0	5.9	-14.9
11月	1	7.3	11.4	3.3	3.6	15.0	5.7	10.4	1.3	14.1	18.3	1.6	1.0	2.0	-10.5	-3.3
	2	2.9	7.4	-1.0	13.8	6.5	4.3	8.7	0.2	12.7	18.5	-1.4	-1.3	-1.2	1.1	-12.0
	3	4.0	8.6	-1.0	13.3	17.5	2.8	6.7	-1.0	11.2	19.0	1.2	1.8	0.0	2.1	-1.5
	4	2.5	7.0	-1.8	11.3	33.5	1.4	5.1	-2.1	10.2	19.0	1.1	1.9	0.3	1.1	14.5
	5	1.2	4.3	-1.8	12.9	4.0	0.3	3.9	-3.1	10.0	18.9	0.9	0.4	1.3	2.9	-14.9
	6	1.4	4.3	-1.5	9.3	25.0	-0.8	2.7	-4.2	9.8	18.5	2.2	1.6	2.7	-0.5	6.5
12月	1	-0.2	3.3	-2.9	8.5	7.0	-1.9	1.4	-5.4	9.3	18.1	1.7	2.0	2.5	-0.8	-11.1
	2	-4.0	-1.1	-6.6	10.7	18.0	-3.0	0.2	-6.6	9.1	17.6	-1.0	-1.3	-0.0	1.6	0.4
	3	-5.5	-2.6	-8.0	7.3	26.5	-3.9	-0.6	-7.7	9.5	17.5	-1.6	-2.0	-0.3	-2.2	9.0
	4	-6.3	-3.3	-10.2	13.9	13.0	-4.6	-1.3	-8.6	9.5	16.6	-1.7	-2.0	-1.7	4.4	-3.6
	5	-10.2	-5.4	-15.0	20.8	1.5	-5.2	-1.8	-9.3	9.5	15.4	-5.0	-3.6	-5.7	11.3	-13.9
	6	-6.6	-3.7	-10.6	6.0	26.5	-5.6	-2.2	-9.7	11.4	17.1	-1.1	-1.6	-0.8	-5.4	9.4

Ⅱ 統計資料

1 農家数の推移

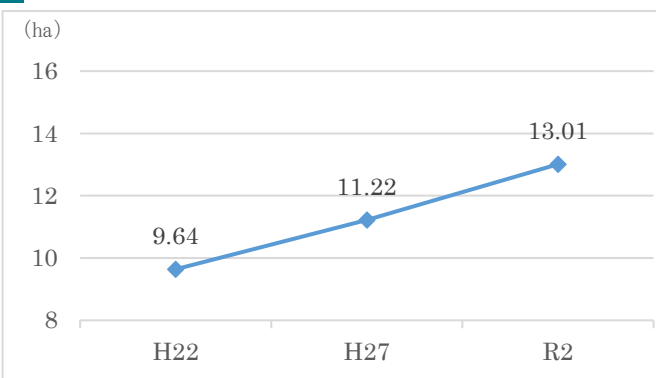


(単位: 戸) 各年2月1日現在

年	販売農家	自給的農家	総農家数
平成22年(2010)	1,346	301	1,647
平成27年(2015)	1,133	298	1,431
令和2年(2020)	843	273	1,116

資料: 農林業センサス (H27、R2)、世界農林業センサス (H22)

2 1 農業経営体当たりの経営耕地面積の推移



(単位: ha, 経営体) 各年2月1日現在

年	総耕地面積	経営耕地のある農業経営体数	1 農業経営体当たりの経営耕地面積
平成22年(2010)	13,320	1,382	9.64
平成27年(2015)	13,201	1,177	11.22
令和2年(2020)	11,596	891	13.01

資料: 農林業センサス (H27、R2)、世界農林業センサス (H22)

3 主要農作物作付面積・生産量及び生産額

作物		令和3年			令和4年			令和5年		
		作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)
水稲		5,790	36,200	7,547,700	5,680	35,500	7,650,250	5,770	35,900	7,276,930
畑作物	小麦	1,080	3,430	121,079	1,100	3,760	155,664	1,140	3,490	210,447
	大豆	764	1,390	182,507	773	1,720	270,728	757	1,440	216,576
	ばれいしょ	137	2,544	124,209	125	2,713	135,415	118	2,971	114,669
	てん菜	167	12,200	137,860	175	13,100	144,100	129	8,650	95,150
	そば	1,260	870	218,631	1,290	889	223,139	1,400	676	149,193
計		3,408	20,434	784,286	3,463	22,182	929,046	3,544	17,227	786,035
飼料作物		60	727	9,821	57	1,297	11,932	57	1,501	16,850
牧草		1,885	36,308	250,525	1,655	35,064	241,941	1,659	37,070	255,783

作物			令和3年			令和4年			令和5年		
			作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)
野菜	果菜類	いちご	28	9	8,472	26	4	6,554	16	4	5,397
		かぼちゃ	293	87	10,364	701	120	9,369	504	93	9,614
		きゅうり	141	215	57,712	194	186	48,929	141	242	76,618
		ししとう	67	29	38,818	72	31	39,564	82	27	41,786
		なんばん	86	26	29,818	76	29	30,130	79	26	29,344
		トマト	194	217	81,362	171	192	70,674	119	164	61,513
		中玉トマト	10	5	1,976	20	6	2,232	20	6	1,919
		ミニトマト	256	146	94,185	307	146	111,482	307	137	106,940
		ピーマン	217	189	83,842	321	180	84,797	288	151	91,398
		メロン	485	80	38,901	484	86	43,020	480	86	44,635
		なす	10	4	910	7	3	515	0	5	1,429
		小計	1,787	1,008	446,360	2,379	982	447,266	2,036	941	470,593
	葉茎菜類	グリーンアスパラ	2,881	51	72,608	2,121	62	76,179	1,860	50	59,846
		キャベツ	10	4	415	0	4	389	38	2	140
		こまつな	2,440	303	127,089	2,390	299	128,366	2,557	276	132,981
		サラダナ	191	16	11,959	191	16	12,376	109	16	12,324
		しゅんぎく(株張り)	69	6	5,215	69	7	7,235	80	6	8,258
		しゅんぎく(摘み取り)	363	48	48,067	342	45	48,179	313	28	36,893
		セルリー	27	11	2,393	27	12	2,683	33	6	1,375
		ターサイ	200	45	14,300	200	46	14,903	139	28	10,459
		チンゲンサイ	988	235	98,323	953	261	111,119	868	247	110,602
		軟白長ねぎ	100	58	36,097	85	56	33,189	77	55	38,324
		青(小)ねぎ	480	63	59,742	440	48	53,428	303	39	46,822
		その他ねぎ	85	8	5,004	78	7	4,746	88	7	4,736
		玉ねぎ	165	55	3,997	189	96	7,840	147	55	3,652
		パセリ	181	39	56,628	181	35	61,943	211	35	74,159
		ほうれんそう	1,585	68	51,366	1,335	64	52,776	1,197	60	48,862
		結球レタス	218	74	13,695	175	78	15,152	188	74	13,597
		サニーレタス	272	76	30,393	264	72	30,665	272	68	35,050
		リーフレタス	272	81	32,469	274	73	28,194	254	67	31,362
		みずな	285	33	15,185	277	26	12,962	122	20	10,544
		ブロッコリー	—	—	—	625	75	15,987	335	42	8,037
		小計	10,812	1,273	684,945	10,216	1,382	718,311	9,191	1,181	688,023

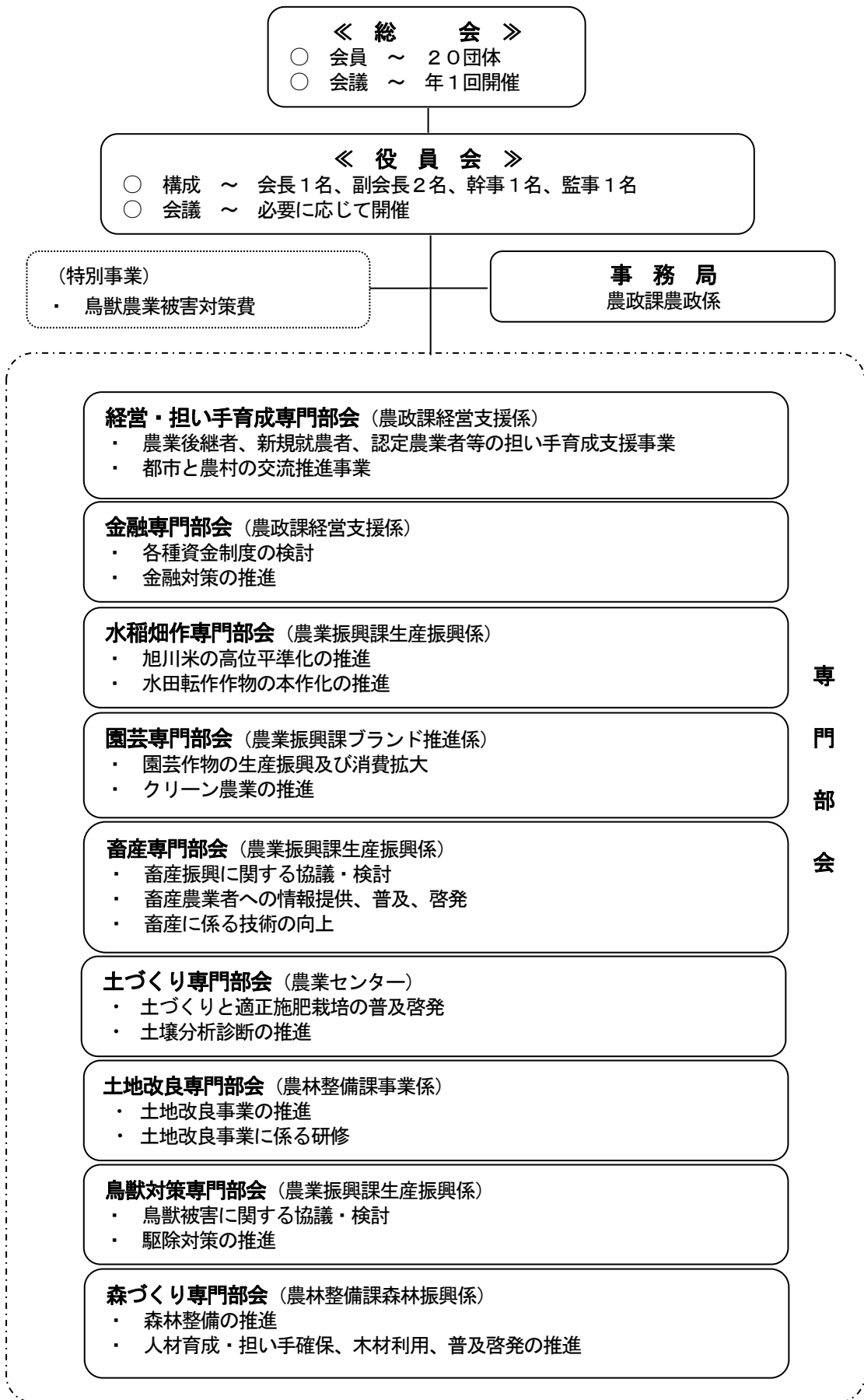
作物			令和3年			令和4年			令和5年		
			作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (a)	生産量 (t)	生産額 (千円)
野菜	根菜類	かぶ	60	14	3,477	35	12	3,639	40	10	2,638
		ばれいしょ (生食用)	200	43	5,872	184	39	3,037	1	35	2,388
		ばれいしょ (加工用)	13,500	2,501	118,337	12,300	2,674	132,378	11,830	2,935	112,281
		さつまいも	100	15	2,530	376	56	7,836	1,168	108	13,759
		ラディッシュ	76	19	11,292	49	21	14,075	35	21	13,825
	小計		13,936	2,592	141,508	12,944	2,801	160,965	13,074	3,109	144,891
	軟莢類	さやいんげん	90	6	8,010	85	5	7,204	61	3	5,694
		さやえんどう	38	2	5,895	38	1	4,448	13	1	5,912
		えだまめ	80	6	4,209	80	6	3,087	33	4	1,899
		スイートコーン	5,752	858	32,693	4,971	972	38,156	5,200	324	19,009
	小計		5,960	872	50,807	5,174	984	52,895	5,307	332	32,514
菜	他	果菜～軟莢	1,758	103	77,958	22	27	41,472	570	33	29,656
		小計	1,758	103	77,958	22	27	41,472	570	33	29,656
	野菜合計		34,253	5,848	1,401,578	30,735	6,175	1,420,909	30,178	5,596	1,365,677
花き	切花		968	-	80,009	867	-	87,316	790	-	86,796
	花壇苗		4	-	592	4	-	511	4	-	445
	花き合計		972	-	80,601	871	-	87,827	794	-	87,241

参考資料

作物		作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (千円)
果樹	りんご	19.9	244.2	44,371	19.9	271.4	49,313	19.9	239.2	46,579
	おうとう	23.6	39.9	66,931	23.6	25.3	42,440	23.6	43.5	83,061
	なし	4.5	23.8	2,679	3.7	27.0	3,040	3.4	13.8	1,942
	その他	7.9	22.3	7,031	7.9	22.4	7,063	7.9	22.3	7,269
	果樹合計	55.9	330.2	121,012	55.1	346.1	101,855	54.8	318.8	138,851

畜産			生産量	生産額 (千円)	生産量	生産額 (千円)	生産量	生産額 (千円)
畜	子畜生産	乳牛(頭)	265	49,068	231	20,319	229	18,089
		肉牛(頭)	624	161,709	536	130,989	501	93,104
		初妊(ホル) (頭)	22	7,518	21	5,540	20	3,542
		生乳(t)	2,942	277,128	2,939	277,667	2,839	293,759
産	枝肉生産	乳牛(t)	302.5	284,675	278.0	272,238	285.0	238,509
		肉牛(t)	372.7	585,948	405.0	611,966	417.7	571,209
		豚(t)	3,169.8	1,654,820	3,548.5	2,042,485	3,312.8	2,024,464
		鶏(羽)	83,942	－	81,680	－	81,507	－
		鶏卵(t)	2,257.1	505,590	2,200.2	539,049	2,195.6	715,765
		畜産合計	－	3,526,456	－	3,900,253	－	3,958,441

機構図（令和6年度）



構成団体一覧（令和6年度）

	機関・団体名	住所	電話番号
推進機関	旭川市（農政部）	旭川市7条通10丁目	25-7417
	旭川市農業委員会	旭川市7条通10丁目	25-6729
	あさひかわ農業協同組合	旭川市豊岡4条1丁目	31-0111
	東旭川農業協同組合	旭川市東旭川南1条5丁目	36-2111
	たいせつ農業協同組合	旭川市東鷹栖1条3丁目	57-2311
	東神楽農業協同組合	上川郡東神楽町北1条東1丁目	83-2321
	旭川土地改良区	旭川市西神楽1線18号390-2	75-5511
	永山土地改良区	旭川市永山2条19丁目3番11号	48-2352
	東和土地改良区	旭川市東旭川町旭正312	32-2241
	大雪土地改良区	旭川市東鷹栖4条5丁目639-130	57-2919
	北海道農業共済組合道央統括センター 上川中央支所	旭川市東旭川町下兵村517番地	36-2162
	旭川市森林組合	旭川市工業団地3条1丁目2番15号	36-4268
	北海道猟友会旭川支部	旭川市豊岡8条5丁目1-17-301	33-5105
関係機関	北海道開発局旭川開発建設部	旭川市宮前1条3丁目3番15号	32-1111
	北海道農政事務所 旭川地域拠点	旭川市宮前1条3丁目3番15号	30-9300
	北海道立総合研究機構農業研究本部 上川農業試験場	上川郡比布町南1線5号	85-2200
	上川農業改良普及センター	上川郡当麻町宇園別2区748番地	84-2017
	北海道上川家畜保健衛生所	旭川市東鷹栖4線15号	57-2232
	北海道旭川農業高等学校	旭川市永山町14丁目	48-2887
	旭川市内農民連盟連絡協議会	旭川市東鷹栖2線14号	57-3173

チャレンジ農業2025

編集 旭川市営農改善推進協議会
発行 令和7年3月

旭川市7条通10丁目 旭川市第二庁舎5階
TEL (0166) 25-7417
FAX (0166) 26-8624